

# 豊かな富浦の自然を活かす

## 富浦協働つうしん

10月13日(水)

### 第二回「富浦の地域づくりを考える会」を開催

市役所大会議室で九月二十一日、第二回「富浦を考える会」が開かれました。ゆたかな地域づくりに向け、30代〜70代の市民41名が、参加しました。

参加者は、七班に分かれ、八月に話し合った「富浦の宝と課題」について、取り組んでみたいテーマ等に絞り込み、その取り組み方法等を出し合いました。その結果、①富浦の豊かな自然を活かすため、海岸の美化活動の実施、②枇杷などの特産を活かしたまちづくり、③市民の交流の場と機会づくり等のテーマが浮上してきました。そして、その取り組み方法として、多くの団体と連携し、毎月一回程度、海岸を掃除する等の意見が出されました。



大房岬茶屋の下にて  
(自然とのふれあいの場)



次回は、十月中旬、今回出された意見をもとに、市民でできる取り組み等に絞り込んでいきます。住んでよかった、住み続けたい富浦を目指して、一緒に地域づくりを進めましょう。多くの方々の参加をお待ちしております。



#### 参加者の声

原岡在住

石井さん

参加者が気持ち良く自分の意見を言える楽しい会議であった。また、堅苦しさもなく非常に良かった。

富浦の宝と課題についてテーマを絞り込む参加者



#### 「枇杷などの特産を活かす」取り組み

Aさん 枇杷のオーナー制度を設ける。  
Bさん 花を使ったイベントを行う。

取り組んでみたいテーマとその取り組み方法をまとめた参加者

# 「市民の交流の機会とそ

## の場づくり」

Cさん 軽スポーツをする機会をつくる。  
Dさん 市民の小運動会を開く。

### 富浦の現状

#### 人口の減少

富浦の生産年齢人口は、年々減少し続けています。その結果、生産年齢人口は今後十年間で、富浦の総人口の五十%弱にまで減少すると予測されています。富浦の課題と今後の対応を皆んなで一緒に考えてみませんか。

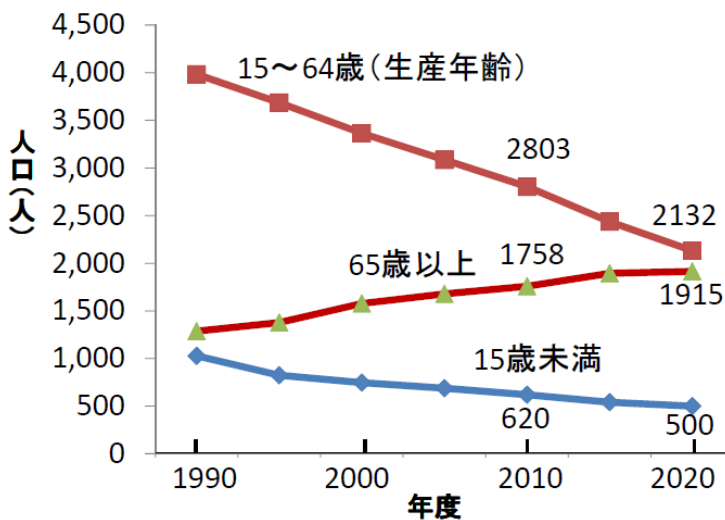


図1. 富浦町の年代別人口の推移

# 「地域づくりを考える会」では

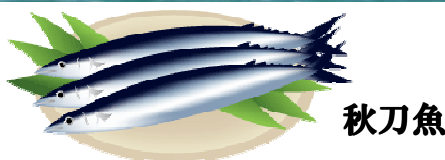
みんなて話し合い、  
みんなて考えます。

自らできることを、みんなて考えて  
みましょう。

みんなて一緒にできることを、みんな  
て考えてみましょう。

### 豊かな富浦の自然 帰る舟を迎える富浦湾

海の恵みをどっさり持って、無事に帰ってきた漁師さん、家族の安堵と喜びの笑顔が、目の前に浮かんできます。



## 富浦の昔ばなし

### 〜丑の時参り〜

#### (亭主の漁の安全祈願)

昔の話ですが、自分の命にかえても何かの願いを叶えようとする場合、神社に「丑の時参り」というのを行なったそうです。

多田良に、漁師のおかみさんが大房岬弁天の洞窟へ行つた話が残っています。昔の大房は黒松が生い茂り、昼でも暗い所だったので、草木も眠る丑三つ時(午前二時頃)が近づきますと、白装束にざんばら髪で、口に櫛か剃刀をくわえて出かけたそうです。

姿は般若のように恐ろしいものだったので、それが誰かに見られれば、すべての願いが御破算になりますので本人は真剣だったそうです。しかし道中で誰かに会おうとはなかったのです。その姿を見かけた者は隠れてやるのが仁義だったからです。

どうして漁師のおかみさんが、そんな恐ろしい姿をしてまで、人里離れた大房の弁天様へ丑の時参りをしたかといいますと、**亭主の漁の安全祈願**だったのです。多田良では漁師たちが旅に行くと言って遠く南部(東北)の方まで、**突きん棒やサンマ漁**に出漁したからです。船板一枚下は地獄なので愛する亭主にもしものことがあると大変だったからです。

願いが叶って亭主が無事に漁から帰って来ますと、おかみさんたちは大喜びでした。こんどは白昼いそいそと、供物のサンマやサバを持って弁天様にお礼参りをしたそうです。

著者 生稻謹爾氏

